

自他を尊重しながらコミュニケーションをとることのできる生徒の育成

——年2回のホームルーム活動と、ICTを活用した振り返りを通して——

特別研修員 生徒指導、教育相談 金岡 いずみ(高等学校教諭)

【目指す生徒像】 自他を尊重しながらコミュニケーションをとる生徒



手立て2【2学期】

理論の理解を深めるホームルーム活動
アサーティブな自己表現をまとめたリーフレットの作成

生徒の作成したリーフレット

リーフレットにまとめることで、自分も相手も大切にするコミュニケーションを確認できたぞ。

左から、アグレッシブ・非アサーティブ・アサーティブモデル
アサーティブな人になるためには...
DESC法を利用しよう!!
DESC法とは?
★今回は「委員会法め」を例として考えよう!!
委員会決めにて、ある仲良し三人組が何やら話し合いをしていました。なんどしても三人で同じ委員会をやりたい。本当は別にやりたい委員会があるけどA子におされて本音が言えず、そして自分のやりたいものをやるべきだと考えているC子さん。**理論**
そこで、Bさんが思い切って本音を伝えるとA子とやはり意見が衝突してしまい、険悪になってしまいました。**トレーニング**

振り返り 手立て3【通年】

ICTを活用した振り返り

リーフレットを1人1台端末で共有・改善(常時)

2班リーフレット「受験生のみんな!なんかビリビリしてない?」
3班リーフレット「毎日の会話に魔法を〜アサーション・トレーニング〜」
端末にみんなのリーフレットがあれば、いつでも見られるし、自分たちのリーフレットも改善していけるね!

実践
日常生活

手立て1【1学期】

理論を知るホームルーム活動
アサーティブな自己表現のためのDESC法との出会い
場面を想定してDESC法をトレーニング

- Describe** : 客観的な状況を具体的に話す。
- Explain** : 自分の気持ちを建設的に述べる。
- Specify** : 相手に望む解決策を具体的に提案する。
- Choose** : 同意されなかった場合の選択肢を準備する。



相手も自分も嫌な気持ちにならない伝え方があるんだな。**理論**
トレーニング

勉強があるのに、遊びの誘いを断れなかったな。

強く言って、雰囲気が悪くしてしまったな。

生徒の実態

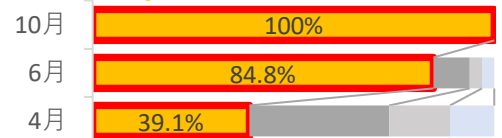
実践レポートをアンケート作成ソフトで提出、事例をクラスで共有(学期に2回程度)
事例:併願校の希望を家族に伝える場面

A子: 併願校に、A大学を受けたいんだけど。
母: A大学なんて、遠くて一人暮らしになってしまうでしょう?あなたに一人暮らしは無理でしょう?
A子: 確かに今の私だと難しいかも。でもこの大学に魅力を感じるんだ。寮に入るのはどうかな?自立できるようになるために家事の練習をするから、教えてほしいな。

A子さんは、相手も大切に考えながら自分の主張を表現できているな。

アサーティブ度をチェック(学期に2回程度)

相手も自分も大切に考えながら話せる生徒の割合



成果
○理論の理解と、理解を深めるための表現活動に加えて、日常生活での実践を継続させることによって、相手のことも自分のことも大切に考えながらコミュニケーションをとることのできる生徒が増えた。
○ICTを活用しながら友達の回答やリーフレットを見て、生徒は多様なコミュニケーションの在り方に気付くことができた。

課題
●授業時間内の作業と授業時間外の作業を適切に精査し、見通しをもった授業構想を練る必要がある。
●本研究の目的や成果を職員と生徒に明確に説明し、自他を尊重するコミュニケーションを学級・学年・全校へと広げていきたい。